

消防だより

No.99



Tokamachi Fire Department

令和2年7月5日

火の用心



「119番通報」から災害対応は始まる!!

「119番通報するときのポイント」や「緊急時、なぜ消防署の一般加入電話(025-757-△△××)ではなく119番通報を勧めるのか」について説明をします。

はい、119番十日町消防署です。
火事ですか、救急ですか？

救急です！

救急車が
向かう場所を教えてください！

まずは出動場所!!

出動場所がわかれば、すぐに出動します。まずは、場所をお伝えください。

「119番通報」から災害対応は始まる!!

「通報者に対して、「火事が救急か」「場所はどこか」「そのほか必要な情報」を聞き、救急車などを出動させます。お聞きした内容は、あなたの大切な人の命や財産を守るための重要な情報となります。

Point

緊急通報は「119番」へ

救急車が必要なときに、「119番通報した場合」と「消防署や最寄りの分署へ電話した場合」を比べると、119番通報をしたときの方が、**1分程度早く出動**することができます。1秒でも早く救急車や消防車を出動させるためにも、緊急通報は「119番」におかけください。昨年、「119番」ではなく、消防署や分署への一般電話による出動要請は、約200件ありました。これは2日に1回以上のペースです。スムーズな出動のため、ご理解とご協力をお願いします。



119番通報の情報は、現場活動で非常に有用となります。

救急隊出動

出動する場所がわかった時点で、消防車や救急車は出動します!

Point

場所がわかった時点で消防車や救急車は出動しますので、細かい情報を聞いているときは、緊急車はすでに現場に向かっていきます。消防隊は、通報者の情報が正確であればあるほど、出動途中の車内で現場活動について作戦を立てやすくなります。救急隊は、現場に向かう車内で傷病者の症状に合わせた道具の準備や、情報が多ければあらかじめ病院へ連絡をすることもできます。これは、傷病者の早い容態の回復にもつながります。通報者から細かな情報をお聞きするのは、「**あなたの大切な人の命を守りたい**」という、私たちの強い思いからです。

現場活動



適切な病院選定



通報フローチャート

※ご自宅からの要請は、なるべく**固定電話の使用**をお願いします。



①救急車が向かう場所

例
「十日町市〇町〇番地の消防太郎です。」

※点線にそって切り、ご自宅の電話の近くに貼りましょう。

②具合が悪いのはどなたですか?

例
「〇歳の父が急に倒れました。」

③意識と呼吸の確認

呼びかけて反応はありますか?
胸とお腹が上下する動きはありますか?

※呼吸の判断が難しいときは、**仰向け**にするとわかりやすくなります。

救急車は出動しました。ここからは細かな情報をお聞きします・・・

すぐさま出動!



切り取り線



「慌てるのは仕方ありません。その後の質問に**落ち着いて** 答えてください。」
緊急時に慌ててしまうのは、仕方のないことです。緊急度が高ければ高いほど、気は動転してしまいます。このようなケースでは、一番重要な「場所の確認」のときに、情報が聞き取れないことが多々あります。
どんなに慌てても、「場所の確認」のときは質問に「ゆっくり」「はつきりと」答えることを意識してください。

救急

救急医療電話相談 小児救急医療電話相談

新潟県では、
●救急医療電話相談#7119
●小児救急医療電話相談#8000
を実施しています。これは、夜間に急な病气やけがをしたとき、「すぐに救急車

小児救急医療電話相談

#8000

※子ども（概ね15歳未満のお子さん）対象

相談内容
お子さんの急な発熱、急なケガ等に関する相談

相談時間
毎日（19時～翌朝8時）

救急医療電話相談

#7119

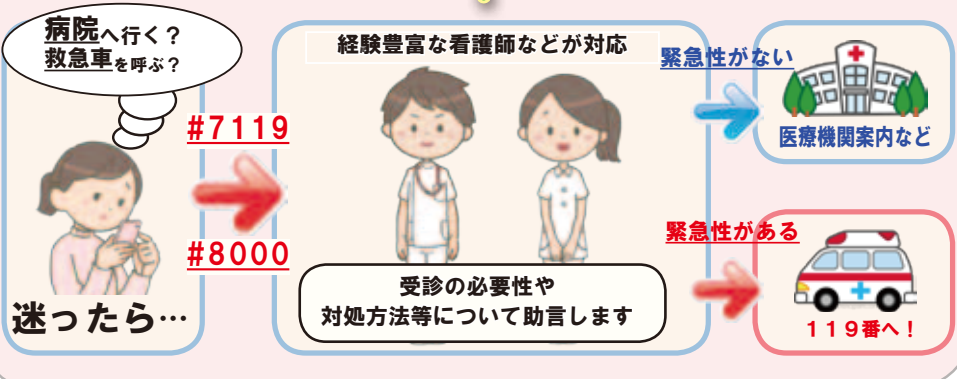
※大人（概ね15歳以上）対象

相談内容
発熱、頭痛、腹痛、吐き気など急な病气やケガ等に関する相談

相談時間
毎日（19時～翌朝8時）

救急車？病院？

夜間の救急、判断に迷ったら・・・



を呼ぶべきか」「医療機関を受診するべきか」などの判断に迷った場合に、看護師等から受診の必要性や対処方法などについて助言を受けることができるものです。IP電話などからは、025-248-7119となりますので、お間違えの無いようお願いいたします。夜間、緊急時の際は、是非ご活用ください。

救急

救急車の適正利用について



救急件数は、年々増加の一途をたどっています。しかし、本来の救急搬送に当てはまらない要請が増えているのも事実です。例えば、症状の軽い人が他に交通手段があるにもかかわらず救急要請をすることがあります。その間、緊急性の高い救急が発生しても、近くの救急車ではなく遠くの消防署から救急車が出動することになるため、救急車の到着が遅くなってしまいます。

「家用車での移動が可能である」「タクシーを待つことができる」などを判断することで、本当に救急車を必要としている重症者のところへ、迅速にかけつけることができます。

救急車の適正利用についてご理解とご協力をお願いします。

赤色灯

〔令和2年の熱中症予防〕

一人ひとりが感染防止の3つの基本である、①身体的距離の確保、②マスクの着用、③手洗いや「3密（密集、密接、密閉）」を避けるなどの対応をこれまで以上に取り入れた、「新しい生活様式」の実践が求められています。

毎年夏に発生しやすい熱中症により、救急患者や病院などを受診する人が増えると、新型コロナウイルス感染症に対応している病院に、大きな負担がかかることが予測されます。

今年の夏は、これまでとは異なる生活環境下になるので、例年以上に熱中症に気をつけることが重要となります。

感染症予防を行いながら、熱中症予防にも心掛けましょう。

- 感染症予防のため、冷房使用時でも換気をする必要があります。換気をするときに室内温度が高くなるので、熱中症予防のためエアコンの温度調節をこまめに行いましょう。
- 気温や湿度が高いときにマスクを着けていると、熱中症のリスクが高まります。屋外で人と十分な距離（少なくとも2m以上）が確保できるときは、熱中症のリスクを考慮し、マスクを外すようにしましょう。

消防だより
火の用心
発行 十日町地域消防本部 〒948-0007 新潟県十日町市四日町新田1-1-1 新田
編集 総務課企画広報係 電話 025(757)0119 FAX 025(757)8499
ホームページ http://www.tokamachi-kouiki.jp/ E-mail tfd119@tokamachi-kouiki.jp